



ニュース さよなら原発 第61号 2018. 2. 11 発行

さよなら原発ひたちなか市実行委員会

連絡先：ひたちなか市馬渡 2824-63 佐藤 英一 TEL:029-273-4775

ホームページ：<http://sayonaragenppatu.wixsite.com/mysite>

新しい原子力安全協定は 住民の命と暮らしを第一に

ひたちなか市など周辺5市と東海村は、原電との新協定を3月にも結ぶと報じられています。協定は市民を守る最後の砦です。福島原発事故の教訓を生かして、じっくり時間をかけ、住民を守るに足る内容(下表)を獲得してほしいです。

市には、交渉の過程を一般公開し、市民の声をきいて交渉に臨んでいただきたいです。



【 新協定に盛り込んでほしい事項 】

- 1 原発事故は、いくら注意しても起こりうること
- 2 原発事故によって市民は恐怖にさらされ一切を破壊されてしまうこと
- 3 百歩譲っても、市民の命、財産、地域を守るために以下のことが明記されること
 - ① 原電は加害者の立場にたっていること。原電は、健康な市民ばかりではないことを念頭に置き、96万人全員が被ばくすることなく避難またはその場で生活継続できる態勢を提供すること
 - ② 避難手段は原電が一切を提供すること
 - ③ 原電は、避難先での住まいや勉強、医療、介護、営業等の条件を確保し、避難者の窮状、生きがい喪失・失意等を軽減すること
 - ④ 96万人への損害賠償金を原電が確保していること。国費(税金)を当てにしたのでは無責任なこと
 - ⑤ ふるさと帰還希望者に除染と損失補償を行う貯えが原電にあること
- 4 以上を確認したのちに、市村長の事前承認を受けること
(各要件が満たされているか否か市村長の最終判断が不可欠です。)

古い「東海第二原発」は、廃炉が一番！
◇原発でできた放射能は、消滅する技術がなく、何万年も脅威です。
子どもたちに、安全な未来を
◇原発廃炉へ、廃炉技術を磨くことこそ重要です。

小泉元総理*講演会「私たちの未来を語る」

* 原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟顧問

日時：4月14日(土) 午後1時開演(12時開場)

会場：県民文化センター大ホール

(水戸市千波)

入場料：500円(大学生以下無料)



ニュース「さよなら原発」の発行に
カンパをお願い致します。ニュースを
配って下さる方も募集しています。
上記連絡先までご連絡ください。

ひたちなか市の

東海第二原発への 声 声

皆さんの **声・つばき**
お寄せ下さい。
TEL/FAX: 029-273-4775

代々続く干し芋農家 70 代男性

会員：お忙しそうですね。（ニュース手渡す）

男性：地方から毎日ファクスが入って、もう
応じ切れない程、忙しいよ。ひたちな
かの干し芋は評判がいいよ。（中略）
原発はもう古いから廃炉だ。戦争にな
ったら 1 番先に狙われるのは原発だ
し、ここは、原発の重大事故が起きたら
逃げようがない、福島を見れば分るよ
うに逃げても帰って来れねえ所だ。

会員：そうなんだよねえ。だから、俺、ニュー
ース配っているのですが・・・。

男性：ひたちなかの今の市長は、原発に慎重
だ。もう一期、頑張ってもらうべえ。

会員：それいいですねえ。

「原電の住民説明会」日程

原電は「東海第二原発が事故をおこしたと
きの賠償は、最後は国が行う」「再稼働は
（着々準備しているのに）未だ決めていない」
と回答しています。市内と近隣の住民説明会
は下記。17(土)以外はすべて 18:30 が開始時
刻です。

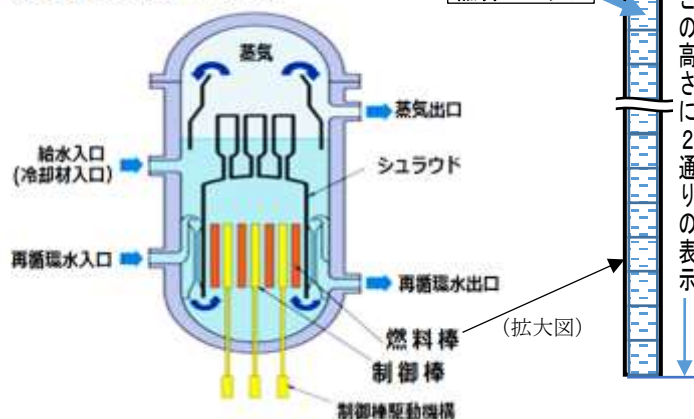
- 2/15(木) ホテル・クリスタルパレス
- 17(土) 10:30～ J A 常陸東海会館
- 19(月) ホテル・クリスタルパレス
- 21(水) J A 常陸東海会館
- 22(木) 常陽芸文センター(水戸市)
- 27(火) 総合センタ「らぽーる」(那珂市)
- 3/ 1(木) 大洗文化センター

- 1) 単位は $\mu\text{Sv/h}$ (マイクロシーベルト毎時)。
*「2011 年の原発事故」前は $0.05\sim 0.02 \mu\text{Sv/h}$ 。
- 2) 測定器は HORIBA PA1000 Radi ; 測定者は正治。
- 3) 政府の安全基準値は $0.23 \mu\text{Sv/h}$ である。

東海第二 燃料棒の高さに誤表記

原発の核心である燃料棒（図）の筒に入っている燃料ペレットの頂上の位置を示す数値に 2 通りあることが、運転開始から 40 年近い今回、原子力規制委の指摘で判明。ズサンだとして、関連個所の再点検を迫られています。

沸騰水型原子炉（BWR）



放射線測定ボランティア・正治さんが、測ってみると？

2018 2/5（月）ひたちなか市鶴代（つるしろ）。
県道 108 号線脇の「工務店」前を東に 250m ほど
入った農家の裏手で高木ケヤキ脇。農道の側溝
フタの上 1m 高さで測定（以下同じ）。4 年 8 月前
の同所は $0.75 \mu\text{Sv/h}$ だったので、6 割まで減少
している。農道を挟んだ反対側は $0.14\sim 0.22$
 $\mu\text{Sv/h}$ 。また、写真に大きく写っている農道の上
では $0.07 \mu\text{Sv/h}$ であった。



セシウムからの放射線は測定を開始した 2012 年 4 月から 3 年後に約半分に減りました。今後は減り方がゆるやかになるので半減するのに約 30 年かかると推定されます。樹木の根元に濃縮されがちなので要注意です。